

第2学年 国語科学習指導案

児童 2年1組 男13名 女12名 計25名

- 1 単元名 ようすを考えて読もう
教材名 「お手紙」(光村図書 2年下)

学習指導要領 第1・2学年<読むこと>

- ・目標 標：「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」
- ・主たる指導事項：「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」
＜読(1)ウ＞
「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」 ＜読(1)ア＞

2 単元について

(1) 児童について

児童は、これまでに物語文「ふきのとう」や「スイミー」の教材を通して、会話文や挿絵等を手がかりに場面の様子を想像して、動作化をしたり、役割読みをしたり、自分の思いを吹き出しに書いたりして、登場人物の心情や場面の様子を読み深める学習をしてきている。これらの学習を通して、児童は自分なりに想像を広げ、登場人物になりきって楽しみながら音読したり、吹き出しに書いたりすることができるようになってきている。しかし、まだ場面の様子を想像することや、読み取った内容を自分の言葉で話すことが苦手な児童が少なくない。大きな声ではっきりと読めるが、読み取った内容を音読に生かして読むことがまだ不十分な児童もいる。

対話については、1年生のころから取り組んでいることもあり、抵抗なく自分の考えを話せるようになってきており、友達の考えと同じか違うかを比べられるようになってきているし、内容によっては質問ができるようになってきている。

(2) 教材について

本教材は、ちょっぴりわがままで、自分勝手ながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくんの温かい友情が感じとれる作品である。「すぐやるぜ。」と手紙の配達を引き受けたかたつむりくんが四日もかかって配達をするという展開もユーモラスである。物語は二人の会話が中心に話が展開されていて、その中にそれぞれの人柄が表れているため、登場人物の気持ちや場面の様子をとらえやすいと考える。また、十枚の挿絵は、二人の微妙な心の動きを効果的に表しており、文章表現と合わせて、どの児童も二人に共感し想像広げながら読み進めていくことができると思われる。

これらのことから、会話文や挿絵を手がかりに、場面の様子などについて想像を広げながら読む学習に適した教材であると考ええる。

(3) 指導にあたって

第1次では、今まで手紙を書いたりもらったりした経験を話し合い、手紙への興味・関心をもたせ、本教材の学習に対する意欲へとつなげていきたい。また、音読発表会を行うという単元のゴールを明確にして学習計画を立てていくようにしたい。

第2次では、本教材が会話中心に展開されていることから、積極的に音読を取り入れ、場面の様子を想像豊かに読み取らせていきたい。その際、場面の様子や会話の中に込められている登場人物の気持ちが表れるように音読の工夫をさせていきたい。また、挿絵にも着目させ、場面の様子や登場人物の気持ちを考える手がかりにしたい。

第3次では、グループごとに役割を決め、音読の仕方を工夫しながら練習し音読発表会を行う。

3 指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 登場人物の様子や心情に関心をもって読み取ったり、楽しんで音読したりしようとする。

【読むこと】

- ・ 登場人物の様子や心情を想像しながら読むことができる。 <読(1)ウ>
- ・ 登場人物の気持ちがよく表れるように、読み方を考えて音読することができる。 <読(1)ア>

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・ 主語と述語の関係に注意して、読んだり書いたりすることができる。 <伝イ(カ)>

4 指導計画（11時間）読む 11時間

| 段階 | 時 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|---------|--|--|
| 第1次 | 1 | ・ 題名を読み、今まで、手紙を書いたりもらったりした経験を話し合う。 ・ 「お手紙」を読み、おもしろいと思ったところを発表し合う。 | ・ 自らの経験を話したり、本文中のおもしろいと思う箇所を指摘したりして、楽しく学習しようとしている。 <読(1)ウ> |
| | 2 | ・ 新出漢字の練習をする。 | ・ 新出漢字を正しく読み書きしている。 |
| | 3 | ・ 場面分けをし、学習の計画を立てる。 | ・ 挿絵や登場人物の言動をもとにして、場面分けをして、学習課題を考えている。 <読(1)ウ> |
| 第2次 | 4 | ・ がまくんの家の玄関で手紙を待つ二人の様子について読み取る。 | ・ 二人が悲しんでいる理由をとらえ、悲しんでいる様子について想像を広げながら読んでいる。 <読(1)ウ> |
| | 5 | ・ 家に帰って手紙を書くかえるくんの様子について読み取る。 | ・ かえるくんの言動からがまくんに対する優しさを想像を広げながら読んでいる。 <読(1)ウ> |
| | 6 | ・ ベッドで寝ているがまくんと、がまくんの家で手紙を待つかえるくんの様子について読み取る。 | ・ 二人の言動や気持ちを対比的にとらえ、二人の様子について想像を広げながら読んでいる。 <読(1)ウ> |
| | 7 本時 | ・ がまくんとかえるくんが幸せな気持ちで座っている様子を読み取る。 | ・ 二人が幸せな気持ちになった理由をとらえ、その様子について想像を広げながら読んでいる。 <読(1)ウ> |
| | 8 | ・ 手紙が届いたときの二人の様子を読み取る。 | ・ 手紙が届いたときの二人の様子について想像を広げながら読んでいる。 <読(1)ウ> |
| 第3次 | 9 10 | ・ 全文を読み、自分が読んでみたい役割を決める。 ・ グループを作り、グループごとに音読の練習をする。 | ・ 友達のアドバイスをもとに、登場人物の様子や気持ちを考え、読み方を工夫している。 <読(1)ア> |
| | 11 | ・ 音読発表会をする。 ・ 単元の学習をふりかえる。 | ・ 登場人物の様子や気持ちを考えて音読している。 <読(1)ア> |

5 本時の指導

(1) 目標

幸せな気持ちで座っている二人の様子を読み取ることができる。

(2) 指導にあたって

①対話について

本時では、「ふたりとも」に着目し、がまくんだけではない、かえるくんのうれしい様子も想像させ、対話する。このように対話することにより、自分の考えがより確かなものになったり、広がったり深まったりすると考える。

②学び合いについて

対話の後、全体場で自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりすることにより、自分では気づけなかった読みに気づき、読み取りをさらに深めることができると思う。

(3) 展開

| 段階 | 時間 | 学習内容と活動 内容（・）主発問（○） | 指導上の留意点（・）と評価（◎） |
|-----|-----|--|--|
| 見通す | 5分 | 1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 ふたりは、げんかんにすわって、どんなことを考えていたのでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> 挿絵を活用し、前時の学習を想起できるようにする。 挿絵から二人が幸せな気持ちになったことを確認し、会話文、手紙の内容から学習課題を解決していく見通しをもたせる。 |
| 深める | 35分 | 3 学習場面を音読する。 4 学習課題を解決する。 (1) がまくんに手紙のことを打ち明けた時のかえるくんとがまくんの様子を読み取る。 ○ かえるくんががまくんにお手紙のことを話したのはなぜでしょう。 (2) お手紙の内容とがまくんの会話から、お手紙のことを知ったがまくんの気持ちを想像する。 ○ 「ああ。いいお手紙だ。」と言ったとき、がまくんはどんな気持ちだったのでしょうか。 (3) 玄関に座ってお手紙が来るのを待っている二人の気持ちを想像する。 ○ なぜ、かえるくんも、しあわせな気持ちになったのでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> 誰の会話なのか、主語、述語に気をつけて読むことを確認する。 手紙が届くのを懸命に待っているかえるくんの様子から、がまくんを早く喜ばせようとするかえるくんの優しさに気づくようにする。 「きみが。」に込められたがまくんの驚きを捉えさせる。 手紙の中の「親愛なる」「ぼくの親友」「きみの親友」「うれしく思っています。」の言葉から、かえるくんのがまくんに対する気持ちを想像できるようにする。 手紙文の内容を確認した上で、「ああ。いいお手紙だ。」を音読させ、がまくんの幸せな思いを表現できるようにする。 |

| | | | |
|------------------|--------|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 対話をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T： なぜ、かえるくんもしあわせな気持ちになったのでしょうか。</p> <p>A： わたしから話します。かえるくんが、がまくんのことを親友だと思っている気持ちが伝わったからだと思います。</p> <p>B： （Aの考えをくりかえす。）ぼくが話します。ぼくは、手紙をもらえなかったがまくんにかえるくんが手紙を出したことで、がまくんがとても喜んでくれたからだと思います。</p> <p>A： （Bの考えをくりかえす。）わたしは、Bさんの考えを聞いて・・・と思いました。</p> <p>B： ぼくは、Aさんの考えを聞いて・・・と思いました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 全体で交流する。 <p>(4) 課題のまとめをする。</p> <p>○ ふたりともしあわせな気持ちでお手紙を待っているときどんなお話をしながら待っていたのでしょうか。吹き出しに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 吹き出しに書いたことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>がま： 初めてお手紙がもらえる。うれしいな。ぼくたち親友なんだね。かえるくんありがとう。等</p> <p>かえる： がまくんが喜んでくれてうれしいよ。お手紙出してよかったな。等</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> かえるくんの手紙をきっかけにして、二人が幸せな気持ちに変わっていったことを板書で振り返り、二人がどんな気持ちで手紙を待っているかを想像して吹き出しに書くようにする。 ◎ 二人の幸せな気持ちを吹き出しに書くことができたか。 |
| ま と め る | 5 分 | <p>5 まとめの音読をする。</p> <p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 登場人物になったつもりで、気持ちが表れるように役割読みをする。 次時は、手紙が届いたときのがまくんとかえるくんについて学習することを知らせる。 |

<具体的評価規準と支援>

A： 二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、互いを想う気持ちを吹き出しに書いている。

B： 二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、吹き出しに書いている。

C児への支援： かえるくんがお手紙を出したことを知り、がまくんはどんな気持ちだったかを考えて吹き出しに書くことができるように支援する。

(4) 板書計画

お手紙

アーノルドローベル さく・絵
みき たく やく

ふたりは、げんかんにすわって、どんなことを考えていたのだろう。

かえるくん

がまくん

「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと、まどの外を見ているの。」

「でも、来やしないよ。」

早くよろこばせたい。

「きつと来るよ。」
「だって、ぼくが、きみにお手紙だしたんだもの。」

しんじられない。本当かな。

「きみが。」
「お手紙に、なんて書いたの。」

「ぼくは、こう書いたんだ。
『親愛なる がまがえるくん。
ぼくは、きみがぼくの親友であることをうれしく思っています。きみの親友、かえる。』」

うれしい。かえるくんありがとう。

「ああ。」
「とてもいいお手紙だ。」

がまくんがよろこんでくれたから。

ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。

ぼくたち親友なんだね。かえるくんありがとう。

がまくんがよろこんでくれてうれしいよ。

さし絵